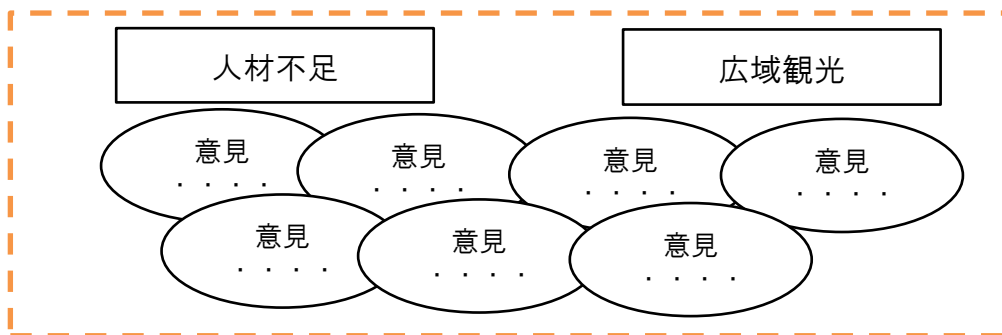


平成27年度第2回ビジョン懇談会 (H27. 11. 16)



平成28年度の新たな取り組み

中空知定住自立圏「しごとの魅力発信と総合的な就業・移住支援」事業  
圏域内に「呼び込む」、「もどす」、「とどまらせる」

周遊観光モニターツアー

防災

中空知5市5町防災に関する協定締結  
定住自立圏形成協定に「消防」を追加  
石狩川滝川地区水害タイムラインの策定

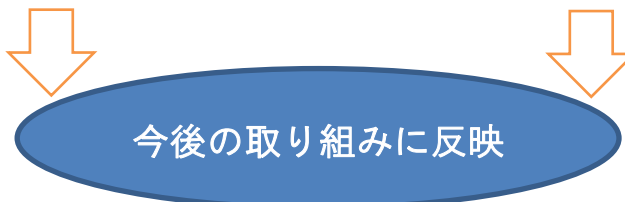
平成28年度第1回ビジョン懇談会 (H28. 10. 17)

就業促進検討グループ

都市圏への転出を防ぐための「とどまらせる」という観点から、就業促進を検討

防災検討グループ

今年度の新たな取り組みや8月の大雨災害等を踏まえて、防災に係る課題等について検討



※ 昨年度の委員からのご意見を踏まえて、グループ別意見交換を実施

## &lt;防災検討グループ&gt;

	市町名	氏名	所属等	関連分野	
1		こいそ じゆうじ 小磯 修二	北海道大学公共政策大学院特任教授	学識経験者	座長
2	滝川市	いわはし ともえ 岩橋 智江	滝川消費者協会会長	環境	
3	〃	みねむら たかし 峯村 孝	滝川市町内会連合会連絡協議会会長	防災	
4	砂川市	みょうえん りょう 明 円 亮	空知医師会会長	医療	
5	〃	かやの かずえ 茅野 和恵	社会福祉法人くるみ会事務長	福祉	
6	〃	たかむら かつひろ 高村 雄 淳	砂川市地域公共交通会議委員	地域公共交通 道路等の交通 インフラの整備	
7	赤平市	くろさか じゆんこ 黒坂 順子	赤平市社会福祉協議会生活支援コーディネーター	福祉	
8	歌志内市	うえさか こういち 上坂 孝一	社会福祉法人ほく志会理事	福祉	
9	奈井江町	なかむら なおこ 中村 尚子	奈井江町まちづくり町民委員会副委員長	福祉	
10	上砂川町	まさき えみこ 笹木 笑子	北翔大学非常勤講師	教育	
11	浦臼町	いしだ みのる 石田 みの 稔	浦臼町社会福祉協議会副会長	福祉	
12	新十津川町	てるい こういち 照井 光一	新十津川町地域防災マスター連絡会議副会長	防災	
13	雨竜町	のむら たかお 野村 隆 男	雨竜町社会福祉協議会事務局長	福祉	

オブザーバー：人材育成・防災専門部会 千葉豊（滝川市総務部防災危機対策室長）

事務局：中空知定住自立圏構想推進会議事務局 藤司和久（滝川市総務部企画課企画政策係長）

## &lt;就業促進検討グループ&gt;

	市町名	氏名	所属等	関連分野	
1	滝川市	いばやし としお 居林 俊 男	滝川商工会議所専務理事	産業振興 交流・移住促進	座長
2	〃	みとべ たかし 三戸 部 隆	社会福祉法人滝川ほほえみ会常務理事	福祉	
3	〃	しのじま えりこ 篠島 恵里子	国際ソロプチミスト滝川理事	教育	
4	砂川市	とがの えつこ 梅野 悦子	砂川市社会教育委員副委員長	教育	
5	〃	なす じゆんいち 那須 淳 市	砂川商工会議所専務理事	産業振興 交流・移住促進	
6	芦別市	おおした むつお 大下 睦 夫	芦別商工会議所専務理事	産業振興 交流・移住促進	
7	〃	かとう かつみ 加藤 勝 美	市立芦別病院事業運営委員会委員	医療	
8	歌志内市	あらおか ひろあき 荒岡 宏 明	歌志内商工会議所専務理事	産業振興 交流・移住促進	
9	奈井江町	とうとう かつゆき 東藤 勝 行	奈井江町まちづくり町民委員会委員	産業振興 交流・移住促進	
10	浦臼町	かまつか こうき 鎌塚 幸 樹	浦臼町農業委員会委員	産業振興 交流・移住促進	
11	新十津川町	いとお のりゆき 飯尾 則 紀	ピンネ農業協同組合参事	産業振興 交流・移住促進	
12	雨竜町	しげや あきひろ 志部谷 明 弘	雨竜町商工会事務局長	産業振興 交流・移住促進	

オブザーバー：産業・観光・交流・定住部会長 長瀬文敬（滝川市産業振興部次長）

事務局：中空知定住自立圏構想推進会議事務局 谷口昭博（砂川市総務部政策調整課長補佐）

## 昨年度の平成 27 年度第 2 回ビジョン懇談会の意見交換における「人材不足」に関するご意見

【就業促進検討グループ用参考資料】

- 色々な産業で後継ぎや人手がいないというが、これまで地方では働く場が無いことから若者が都市部へ出ていき、働く場が無いというのが大問題であった。ところが、今は働き手がないということはどう見ていくのか、人材育成や人材確保ということもあるが、もう一つ、人材のミスマッチというのがある。本当に働きたい、魅力のある働き口が地元が無いと言っても、工夫次第で地元に戻って働けるような働き口をいかに作り出ししていくのか、地域の中で求人、雇用という事を従来のハローワークだけに任せるのではなく、工夫した取り組みができないのか、そこまで問題提起していくことで大事なテーマだと思っている。
- 障がい者福祉の仕事をしているが、人材不足ということについては、人材が不足しているのか、人数が足りないのか、質か数かということになると思う。高齢者福祉については、人手のことが言われているが、障がい福祉は専門性があり、狭く、深く求められている。専門職の不足ということ言えば、この地域だけでなく、全道、全国ともに不足している。今は、細く、長く専門職を育成していくということで、資格が無くても長く雇用することで専門性を育てていくところに力を注いでいる。もう一つは、65 歳以上の元気な方が多いので、これまでの人生経験も含めて、障がい者支援や高齢者支援に力を発揮してもらうことに取り組んでいる。話は変わるが、雇用の際には地元紙や地域の広報等にはなるべく載せないで、ハローワークを通じて行っている。何回も求人を載せると待遇が悪いと思われることからそのようにしている。
- 人材不足は全国的に言われていて厳しい問題だと思うが、短期的なものと長期的なものに分けて考えていくべき。短期的ということについては、高齢者の中に元気な方が沢山いるのでパワーをもらうということと、これから介護の専門職は絶対必要となるので、若い方に頑張ってもらうことが必要。長期的ということについては、これからの中空知を考えていくと短期的なことだけでなく、長期的な視野での人材をどうするのかというのが大事。広い意味では、今いる人材だけでは足りないので、東南アジアの方たちの力を考えて行かなければならない。そのためには語学の問題も側面的に考えて行かなければならない。簡単な日常の英会話くらいは最低限できるようなことも考えて行ったら良い。中空知として、色々な方を受け入れるための仲間意識を強めるためにも、町内会や会議で毎回一つ英会話を勉強するとか、そのような具体的なことも大切だと思う。
- 少子高齢化、人口減少は全国的に進んでいる。この中空知で人材が留まってもらうためには、留まって生活ができるかどうかということが一番の原則だと思う。国の指導のもとに雇用関係が変わり、非正規職員が 4 割を占めているが、その待遇は良くない。人材を育成する、あるいは育てて定着してもらうには、基本的には制度の問題がある。非正規職員は生活保護基準並みの賃金しかもっていない所もある。今回の法改正では、企業側は安く使えるので喜んでいるようだが、働く人が定着してもらうことを考えると生活が大切。3K と言われている一つ分野である介護職は地味だが、生活ができるということがあれば人は離れない。中空知圏域で統一して、待遇について最低限の保障を出してい

くということも必要と感じている。また、このあたりは第一次産業が定着しているところだが、立派な田や畑が遊んでいるという実態がある。農家も後継ぎがないが、農業で食べていけるなら誰も離れない。離れざるを得ない理由もあるのかと思う。地産地消の原点に立って、時間はかかるかもしれないが、そのようなことも必要。人材育成ということについては、食べていけるような待遇を企業の協力も得て定着させるのが一番早い。社協は人の入れ替わりが多く、仕事の割には待遇や家庭環境を含めた措置がないことが要因と考えられる。

- 障がい者福祉に関わっているが、施設の活動の中心は障がい者の就労支援となる。多少の障がいを持っていても、社会と関わって生活活動に取り組み、生きがいを持ってもらうことが目的。障がい者の活動をヒントに高齢者が生涯いきいき生活していける取り組みとして、制度上の問題があるのかと思うが、障がい者のデイサービスのような、高齢者が気軽に集える場所をいくつか設けていただいて、そこで軽作業を行い社会と関わっていけるような取り組みができないものかと考えている。
- 人材なのか人手不足なのかは分けて考えなければならないと思う。人材というと、ある程度専門的な教育を受けることになるので少し広がるので、介護であれば、大学の2年間の一般教養として、介護の資格を取るということを国の奨励として作っても良いのかなと思っている。働き手ということからいくと賃金の問題が大きい。生活していくのが大変だというのが介護職の声で、賃金が低く生活ができない、しかも仕事が大変で体への負担もあるので、その保障をしなければ集まって来ない。広域で実施するのであれば、住宅の保障も一つ。各市町で住宅が空いているので、そこを開放するか、整備して住んでもらうことなどが考えられる。また、教員はほとんど地元に住んでいない。ある程度経済力があるので、家を建てたり、マンションに入っているという実態もある。住宅の保障もしてあげると居住にも繋がってくる。
- 中高生に対して地域にある仕事や、内容を具体的にかみ砕いて説明し、興味を持たせることから始める必要がある。そのためには企業は学校に出向いて、職業教育の一環としてPRする必要がある。単なる移住体験ツアーではなく、空き店舗を利用するなど起業を目指している方の取り組みも必要。
- 人材不足については産業が育っていないというのが一つ。高齢化の時代で、企業の退職者が多いので活用を考えても良いと思う。若い人も必要だが、能力のある高齢者が沢山いて、年金生活なので高い賃金ではなく、アルバイト的に頼めばできることが沢山あるので、そのような活用を考えていくことが必要。そうすれば、高齢化社会において高齢者が生きがいを感じて生きていける。健康に生きていけるので医療費負担の軽減にもつながる。
- 人材不足ということは全国的な課題で、広域の中で検討していくのは大変難しいと思うが、農業に絞ってお話したい。農業の専門職を育てることにに関して、広域的に進めるには難しい面もある。稲作、畑作、滝川には花き・野菜技術センターもあるので、中空知の中で連携するのは難しい面がある。芦別では新規就農を志す者への奨学資金により担い手確保を図っている。大学へ進学するための貸付も行っている。青年就農給付金ということで、国の制度を活用して経営の移譲を受ける者への支援など

を進めている。個々のまちの考えもあるし、広域的に育てていくのは難しいと思っている。

- 初回から話をしているが中空知は高齢化率が全道でも高く、40%を超える市町が4つもある。介護については、中空知は高齢者が多いこともあり、介護職の職員のスキルアップを図るようなことができない。また、滝川に國學院短大があるので、そこで学べば専門的な知識を得て資格を取れるようなことができないかと思っている。ただ、今は、資格を取っても、資格を取る金額に値する給料が当たらないが、介護を受ける人は沢山いるので、給料が解消されれば働く若い人の雇用が生まれてくる。今年の4月から生活支援ということで、介護から地域の支援に介護制度が改正になった。元気なお年寄りが、助けを求めているお年寄りの面倒を見るような、地域の支え合いを行う時代に入っている。中空知には介護施設が多くあるので、教育機関でスキルアップを図るようなことができれば良い。10年もすれば団塊の世代が大変なことになるので、世の中全体で介護職の給料を含めた検討が必要。外国から連れて来たら良いという考え方や具体的な案も無く、介護離職ゼロを目指すというは理解できない。国がある程度介護職の給料を見るような形をしない限り解決しない。まずは効率的にスキルアップする機関があると良い。
- 高齢化が深刻な状態で、人材不足と人材育成が出てきているが、人材不足は手遅れではないかと感じている。高齢化が深刻になってから人材が足りないという議論となっているが、各市町で手の空いている方がかなりいると思う。そういう方に現場に出て来てもらって若い人を育てるような進め方が一番良いと思う。人材育成について、滝川市には國學院があり、助成をしているということだが、手の空いている方がかなりいるので、ボランティアなどで若い人を育ててもらうことが大事。また、育成すれば良いという事ではなく、何が各市町に足りないのかを考えて実施すべき。昔の話になるが、昭和33年頃にある炭鉱で1クラス30名位の幹部生を育てることに対して、将来的に地域に密着するという条件で全額負担する実例があった。現在、会社がなくなっても資格を有して地域に住んでいる人がいるということもあり、若い人の育成に助成をして行くことが必要。また、保育士が少ないという例もある。資格があってもいじめがあり、働きに行けないということもあるようだが、若い人を育てて行ってもらいたい。
- 原点としては働く場所が大前提で、定住人口にもつながる。定住人口が増えれば波及効果も出てくる。かつて、広域市町村圏ができた時には各市町がそれぞれの事業を持ち寄って、一括りにして補助金を獲得することを行っていたが、ほとんどが基盤整備の寄せ集めで、ようやく今日、産業の部分がそれぞれのまちでどうしようということが取り上げられている。中空知には福祉施設が沢山あり、國學院で人材育成をしているし、近い将来65歳以上が45%、50%になるという推計があるので、福祉産業と捉えた時に、施設もあるので、中空知の受け皿を増やすような、新卒で入れる体制を作っていかなければならない。当然、行政の後押しも必要だし、受け皿を雇用の場として早急に進めるべき。6年ほど前に國學院を卒業した知人が、保育士の資格を取ったが、保育士の求人が近隣には少なく、都会は保育士不足で仕事があるが、親元が良いとのことだったが働く場所が無かった。福祉施設も多くあるので、介護職と幼稚園の資格を取ったが、働く場がなかなか無く、圏域内で嘱託として働けるようになった。働く場所は作っていけば良いし、受け皿を確保していきたいと思っている。福祉施設が民間

になると経費節減ということ賃金も上げられないこともあるが、以前は市営の福祉施設があり、途中で職員が辞めても募集すると沢山応募があり、行政という待遇の良さが魅力だったが、今は全て民間に譲渡している。3Kとか4Kと言われているが、事業所も努力をされていて人材を逃さないように、新たに受け入れるように頑張ってきているので、将来を見据えていただきたい。中心市がもっとリーダーシップを持って、地方のまちが恩恵を受けられるよう突き進んでほしい。

- 高校生と中学生が企業体験に行くが、町内だけではなく、中空知圏内に行って色々な体験ができると良い。高校生であれば仕事に就く人もいるので、住んだ時の補助とか、会社からの補助を説明すれば、その市町に住んで仕事に行くことにつながる。奈井江町であれば、滝川から通うのではなく、町内に住んだ際の自治体や会社からの補助をPRすることで親にとっての安心にもつながる。元気なボランティアの話については、社会との関わりを持つことで元気が出るということだったので、高齢の方にファミリーサポート等の仕事などをしてもらえれば、お年寄りの方も元気になるし、まちも元気になると思う。
- 賃金の底上げが第一。人材育成をして、資格を取らせたとしても、それに見合う生活ができなければ出て行ってしまう。逆に大都市部は賃金が高いが、生活する経費も高い。それであれば、中空知で住めば土地代が安いとか、家賃が安いというような助成をして、安く生活できるということを広域で提示していければ良い。学校や医療に関してサポートがあり、多少賃金が安くても中空知は住みやすいという方向に持って行くのが良い。賃金が上がった方が良いが、大都市には勝てないので、住みやすさを考えて進めて行ったら良いと思う。農業に関しては、人材と言うよりは人手不足で、しかも、繁忙期だけ人手不足。通年で人手がいるわけではなく、冬は人手が足りない。また、雪が降るので、冬は土木業は除雪の人手が必要となる。若い人を雇用するよりも、まだまだ働けるシルバー人材センターの方に、農業の忙しい時にサポートしていただければ良い。
- 介護に関する法改正があり、各自治体に事業が移行されるということで、資格を持った方やボランティアの方が必要になる。地域的にも高齢者が多く、介護される人も増えてくるが、支える人の高齢化も進んでいて、対応できるものか心配なので、広域連携が必要と考えている。町の総合戦略の会議でも提案したところだが、特定の年代を対象に介護資格の取得あるいは介護の講習の受講費用を町にも見てもらいたい。年齢が上がれば親の介護なども出てくるので、その時のためにもある特定の年代皆で資格を取ったり講習受講をするような対応も必要と提案した。介護というのが身近な問題なので、必ず必要となる。
- 農業については、人材と言うよりは一時的な人手なので、高齢者に組織化で活躍してもらいたい。新規就農者は全国的にも成功している例がテレビで紹介されているが、ほとんどはただ農業をやってみたいという思いだけで、年間150万円の国の制度や自治体の奨励金を借りて、結局は返せないで終わっているという現実的な問題がある。農協の立場としては慎重に取り扱わなければならない。お金のことだけでなく、住むところや、家族で来るなら子どもの教育費用を負担するなど、地域で支える仕組みが無いと成功しない。北海道で成功しているのは、美瑛とか富良野という魅力のある一部の地域

である。江部乙の菜の花についても時間がかかるし、今後のことを考えると生産者の方だけにお任せするとどこかで途切れてしまう。

- 人材不足の解消には一長一短がある。テレビ等で放映されている人生の楽園とか、移住の生活とかを見ると、憧れている地にいつか住みたいというような人の放映がされている。それらは移住に関する指南番組と思っている。宮崎県の小林市で、方言を使った市の宣伝動画が大変評判になっている。この地域にはアイヌ語で意味するものや由来するものが多いので、言葉を活用して、移住や人材を求めているという情報発信をしていくべき。滝川市の地域おこし協力隊の方が Facebook で食事をした情報などを出している。そこには、そこへ食べに行ったとか、美味しかったとか、このようなものがあるとは知らなかったという何千件もの書き込みがあるので、PRが大事で情報発信が必要だと感じた。追加資料の委員意見集約シートを見ると、味付けジンギスカンの意見が多く出されているので、6次産業化につなげていけば良い。ある人の話では、綿羊は1年に1頭しか子どもを産まないとのことで、さらに、何かを始めるには何十年もかかると聞くと、企業化するのは大変なことだと思うが、そのようなものを利用して情報発信することが大事。
- 社会福祉協議会で町営の保育園運営をしており、今年も保育士の募集を近隣の保育士養成コースのあるところにかけてが、國學院大学からは応募が無かった。大学の先生に話を聞くと滝川市内、それが駄目なら札幌方面へ行くという傾向があるとの話をしていた。そこで、中空知の自治体や法人で、保育士や幼稚園教諭の募集をそれぞれしていると思うが、学生の履歴や成績を広域で取り纏めて共有できれば、第一希望は滝川だけど、第二希望をどこにしようかと考えている学生であれば、交渉するチャンスがあると思う。田舎には田舎の良い所があるという交渉のきっかけもできると感じた。

以上